

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立調布南高等学校 学校運営連絡協議会（全日制制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主任教諭(総務担当)、主任教諭(第1学年主任)、主幹教諭(第2学年主任)、主幹教諭(第3学年主任) 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(河合塾調布現役館長)、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会会長、杏林大学客員教授、地域関連機関関係者(調布市教育委員会、調布市子ども生活部、株式会社角川大映スタジオ管理部) 計9名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月20日（火）内部委員10名、協議委員8名
協議委員委嘱。
各分掌、学年及び経営企画室から昨年度の報告事項と今年度の取組目標、月ごとの年間計画について報告した。
令和4年度学校経営報告。令和5年度学校経営計画。本校の現状と課題について説明。
各協議委員に向けたアンケートを実施し、本校に対する意見や助言を求めた。
第2回 令和5年10月17日（火）内部委員10名、協議委員7名
令和5年度上半期学校経営報告。
今年度の各分掌・学年及び経営企画室からここまでの取組に関する進捗状況、学校評価アンケートに関する報告を行った。
学校評価アンケートの内容等検討。
各協議委員に向けたアンケートを実施し、本校に対する意見や助言を求めた。
第3回 令和6年2月6日（火）内部委員10名、協議委員7名
令和5年度下半期学校経営報告。
今年度の各分掌・学年及び経営企画室の取組の結果報告、学校評価アンケートの結果及び分析、学校評価委員会のからの提言等について報告した。
学校評価アンケートの結果報告。
各協議委員に向けたアンケートを実施し、本校に対する意見や助言を求めた。
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和5年10月10日（火）内部委員2名、評価委員2名 書面での協議
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた、内容・実施時期の検討
第2回 令和6年1月30日（火）内部委員2名、評価委員2名 書面での協議
学校評価アンケートの結果と分析・考察についての資料を提示し、次年度の課題等の提言を作成した。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：706人	回収：673人	回収率：95.3%
・12月	保護者全員	対象：706人	回収：132人	回収率：18.7%
・12月	地域・住民	対象：24人	回収：24人	回収率：100%
・12月	教職員	対象：48人	回収：48人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目
・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・ライフワークバランスなど

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・学校評価アンケートの回収率は、保護者以外は昨年度よりも上昇した。教職員、地域・住民を除いて Forms を用いての実施であったが、保護者が十分に活用できなかったと思われる。保護者への依頼方法の検討とアンケートの趣旨を理解していただき回収率を高めることが課題である。
- ・校訓の理解に関する意識は、生徒が約 61%、保護者が約 80%、教育目標は、生徒が約 34%、保護者が 39%であり、共に教育目標の理解度が低い。校訓、教育目標の理解が学校への帰属意識にも通じるので、向上させる必要がある。
- ・教育課程への満足度は、生徒の約 78%、保護者の約 90%が肯定的な評価をしている。否定的な意見に対しては、説明を十分に行うとともに、その原因を探り、より魅力的なカリキュラムになるようにしていくのが望ましい。
- ・進路指導に関する満足度は、生徒の約 88%、保護者の約 84%が肯定的な評価をしている。進路実績も伸びており、今後ともより良い進路指導を行っていくことが必要である。
- ・学校行事・部活動については、生徒の約 92%、保護者の約 96%が肯定的な評価をしている。特別活動をより一層充実させていくことが重要である。
- ・地域・住民用で「わからない」の数字が多い項目については、ホームページ等を活用し、教育活動の情報発信を強化していくことが必要である。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・生徒、保護者の本校への満足度は非常に高く、主に進路指導、部活動、学校行事への取組等が評価されているものと思われる。今後もさらに取組を充実させていくことが重要である。
- ・生徒、保護者に対して校訓と教育目標を周知させる工夫が必要である。
- ・今後改善が必要な様々な課題はあるが、特に、生徒と教職員の肯定的な意見で違いが大きい項目については、学校としての取組を強化していくとともに、生徒の理解を高めさせる取組・工夫が必要である。
- ・生活指導については、自転車のマナー、歩行者としてのマナーの指導の徹底が必要である。特にヘルメットの着用を含め、自転車事故の防止が重要な課題である。
- ・学校PRをさらに推進する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・アンケート実施の結果、生徒、保護者、地域からの教育活動への充実感及び期待が高いことを把握することができた。今後期待にさらに応えるためにも、学習活動、学校行事、部活動等のより一層の充実・活性化が求められる。
- ・進学実績の著しい伸びが見られたことに対し、現行の本校の教育活動を評価しているという意見が多かった。今後も組織的な学習指導、進路指導を展開していく必要がある。
- ・昨年度はすべて書面開催であったが、今年度は通常で開催で実施し、協議委員による様々な意見を学校経営に生かすことができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校評価アンケートの実施・分析により、学校の課題が明らかになった。
- ・ホームページについては、随時更新心掛け、いつも最新の情報がアップデートされるようにしていくこと。特に保護者や地域の方々に対して情報発信を強化していくことが課題である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・学校の教育活動について、ホームページ等でより一層情報発信に努め、保護者・地域の理解・協力を得る。
- ・保護者・地域・関係機関等外部との連携を深め、教育活動の充実を図る。
- ・避難所設営訓練や地域と連携した防災訓練を通して、生徒防災への意識をさらに高めさせ、防災教育を充実させる。
- ・校訓・教育目標を浸透させる。昇降口等に掲示してあるが、それ以外の場所にも掲示をしていくことで生徒や保護者の目に触れさせ、意識を高めさせる。

(2) 学習指導

- ・教員相互の授業見学や研究授業を活用し、教員の授業力向上を図る。また、授業力向上に関する校内研修を組織的・計画的に実施する。
- ・宿題や週末課題等を工夫して、生徒の自宅学習時間を増やし、基礎学力の定着を図る。
- ・長期休業日中の講習・補習を校内で組織的・計画的に実施することにより、生徒の学力向上を図る。
- ・一人1台端末を活用するためにも、教員のスキルを向上させ、生徒が端末を自在に扱えるようにして

いくことで主体的な学びを実現させる。

(3) 特別活動

- ・学校行事や部活動において生徒が主体的に考え、行動できるように生活指導部を中心に組織的な指導を展開していく。
- ・部活動の活動日や活動時間を厳守するとともに活動時間を最大限活用した特別活動を実施する。

(4) 生活指導

- ・あいさつの励行やルール・マナーの遵守等の指導を徹底していく。
- ・生徒の規範意識をさらに向上させ、いじめや問題行動を根絶させる。
- ・セーフティ教室を活用し、生徒の意識をより高いものにする。
- ・スマートフォンや携帯電話の利用方法、利用時間等についても指導していく必要がある。

(5) 進路指導

- ・進路指導部と学年が密に連携し、1年生から3年生まで系統的かつ組織的・計画的な進路指導を充実させる。
- ・進路指導部を中心としたキャリア教育を推進し、生徒が、第一志望の進路実現ができるようにする。また、三者面談、外部の方を呼んでの講習会・研修会等を充実させる。

(6) 健康・安全

- ・特別支援教育を充実させ、生徒が悩みを抱え込まず、いつでも相談ができる学校にする。特にスクールカウンセラーの活用、養護教諭からの情報発信等を充実させる。
- ・多摩川に近い本校の立地を考慮し、避難訓練では「水害」を想定した訓練を年1回以上実施する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
	8				1	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】特記事項なし

8 その他

- ・学校評価アンケートの分析結果を今後の学校経営に生かしていく。
- ・今年度は、学校評価アンケートの回収率（生徒・保護者）を更に高めるため、Formsを活用した。